



慈  
兩  
大師  
緣  
起  
上

教林文庫  
文庫7  
224  
1

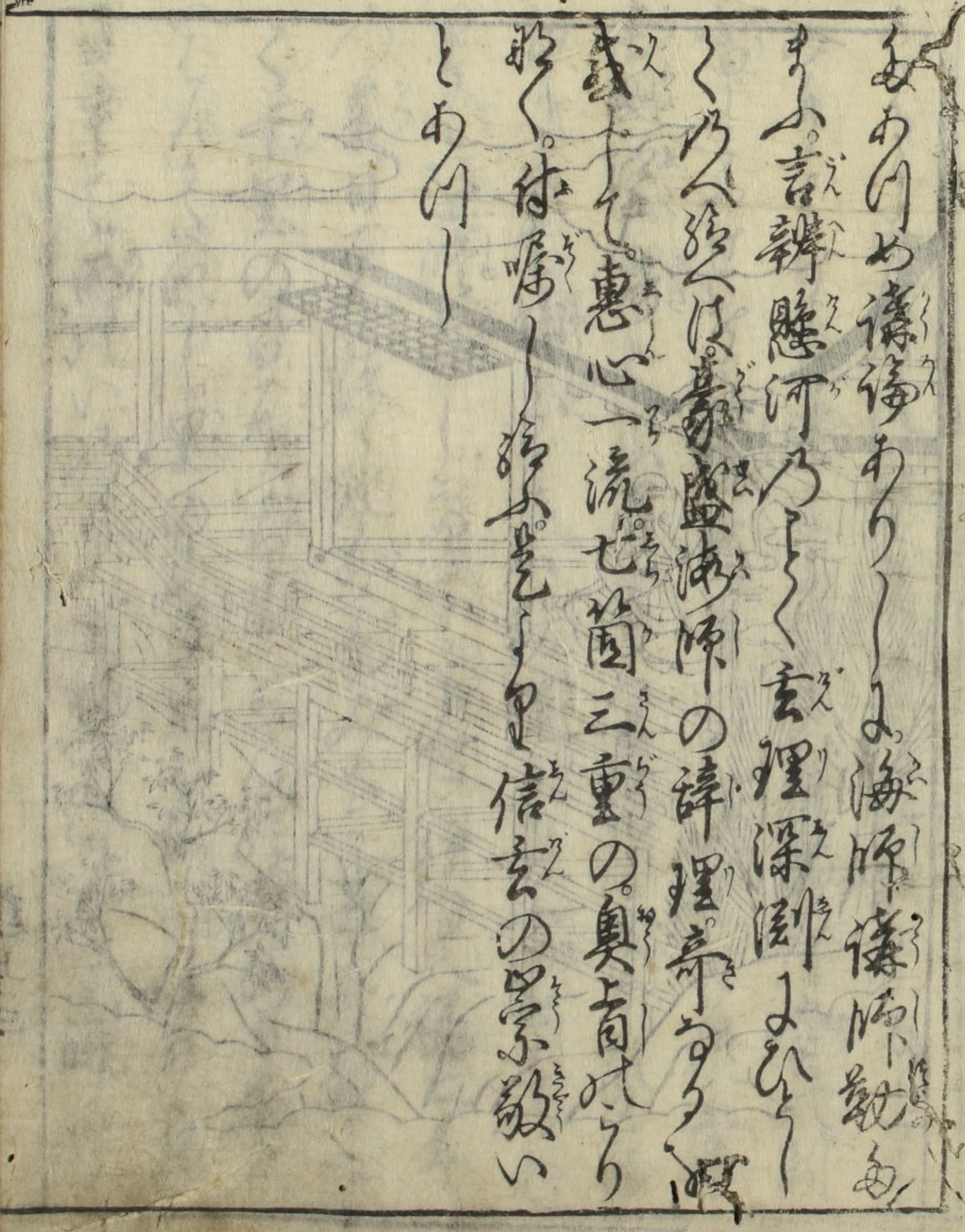


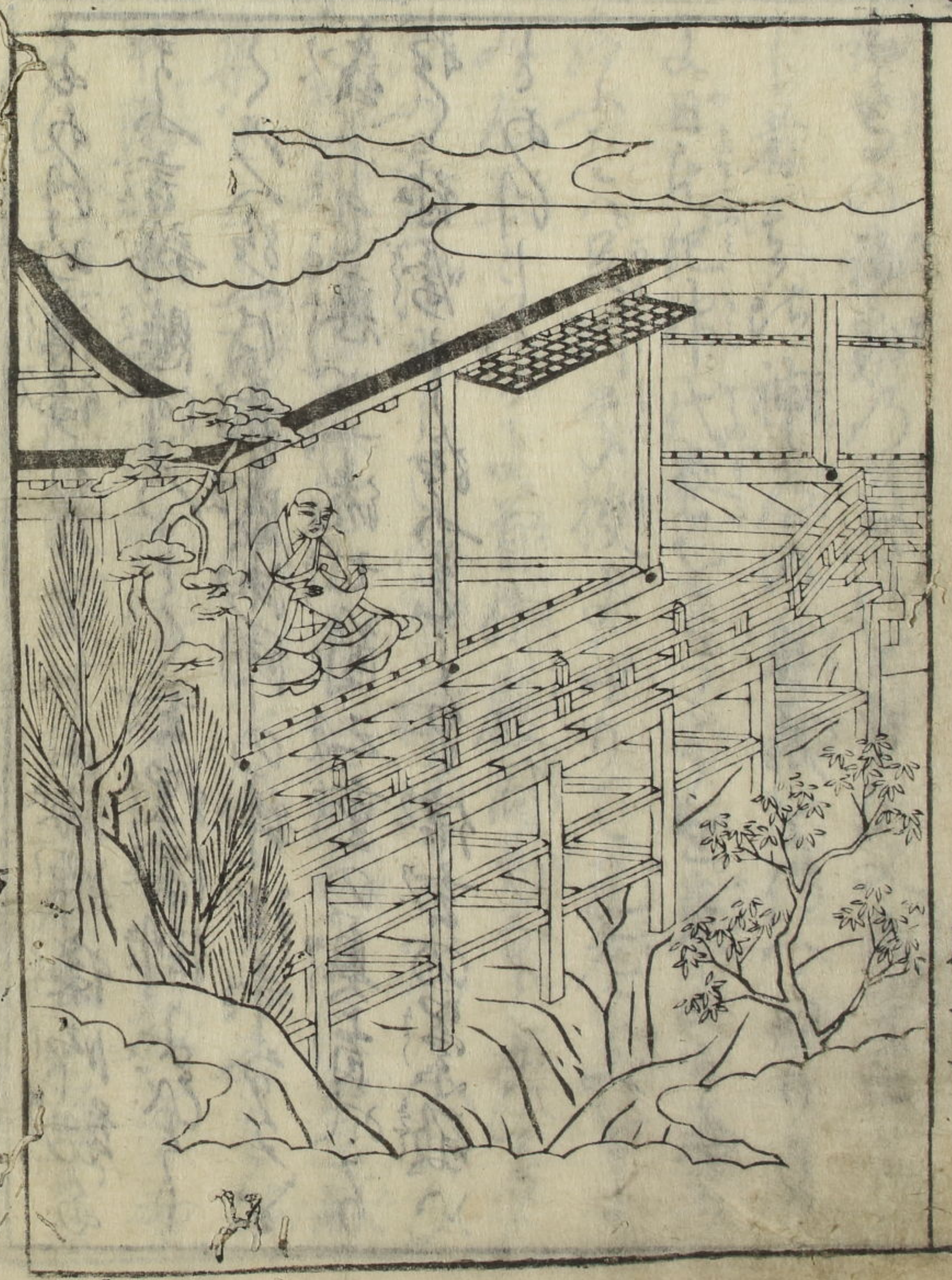




梅子の梅家乃教法と習ひ又成重とつひ  
 一者。多比神乃の奥義と傳へありり  
 日本紀伊代巻とつううを東より傳り  
 傳へて。足利学校より傳りて。孔老の文とよ  
 み。乃悉とつうよ。首楞嚴周易の文とつ  
 傳へ。又云。はめして大寧禪師とつうよ。あひ  
 て。教外別傳と發的。善怒和尚。また。碧巖  
 集とつう。一百則。話頭とつう。心一。つう。つう。つう  
 甲陽の守後源晴信入道信玄。台教とつう。や  
 せひ。山門正覺院。豪盛とつう。碩子の傳。わま

女ののめ。儀傳あり。よ。海原。儀傳。教あり  
 言辨懸河。乃。よ。玄理。深奥。よ。ひ。つ  
 くの。終。は。豪盛。海原。の。辞理。奇。なる。つ。つ  
 義。十。を。惠。心。一。流。七。箇。三。重。の。奥。首。め。つ。り  
 形。の。付。喉。一。つ。あ。是。より。信。玄。の。宗。教。の  
 と。わ。り。つ

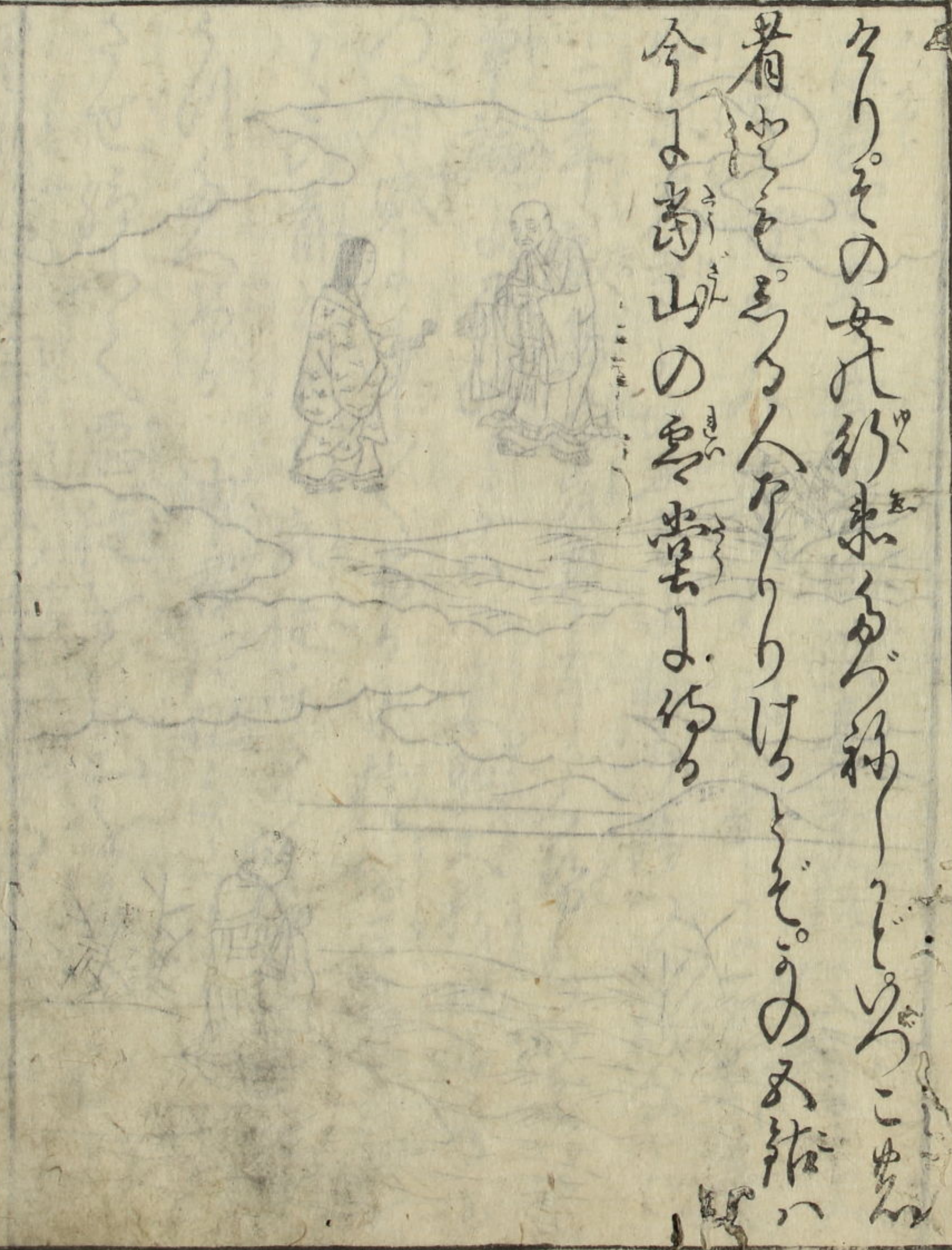




志らるる名修理大夫成良の俗姓乃ある  
 みりしり。會津よひうも。猶荷堂代別  
 當よあせきる。盛高をばとをく。後堂  
 陸國河内守といふ。雨よ。うりまはよ。友かひひ。雨  
 刻よ。を。鎮分よ。不動院といふ。回寺乃あ  
 けり。と。修造し。あ。と。せ。給ふ。文禄二年  
 乃。復日たり。け。死。あ。み。さ。う。さ。し。け。み  
 ち。千里のるり。書苗と。ん。氏。の。う。ま。え  
 い。ん。と。ぬ。し。里。の。人。く。う。あ。み。と。師  
 よ。申。て。雨。れ。い。り。り。と。給。ふ。か。よ。師。と

まつら 沼潭よりして 修法し終ふよ。女一人  
 み姑と持ちて来り。是れをかくし加持し終ふ  
 こと。海原よりあつてう路にたり。海江潭  
 よろぞと。徳雨の法と修し。佛舍利一粒  
 を作葉よ葉く。あけよよう久終へるに  
 ぬ中より書地とくそ。舍利とくそ。魚  
 くまのうーぬ。財のるよ黒雲立ちくそなり。  
 うみゆーうなり。心みゆりして大魚  
 よ路とそ。修し。福葉とくそ。入百穀  
 のりく久くこのあまれすす人もあつる

たり。その女は終末むら終し。いづこ  
 者ゆも。あつる人なり。けし。このみ姑  
 今よ。嵩山の修業よ。ゆ





漢上五

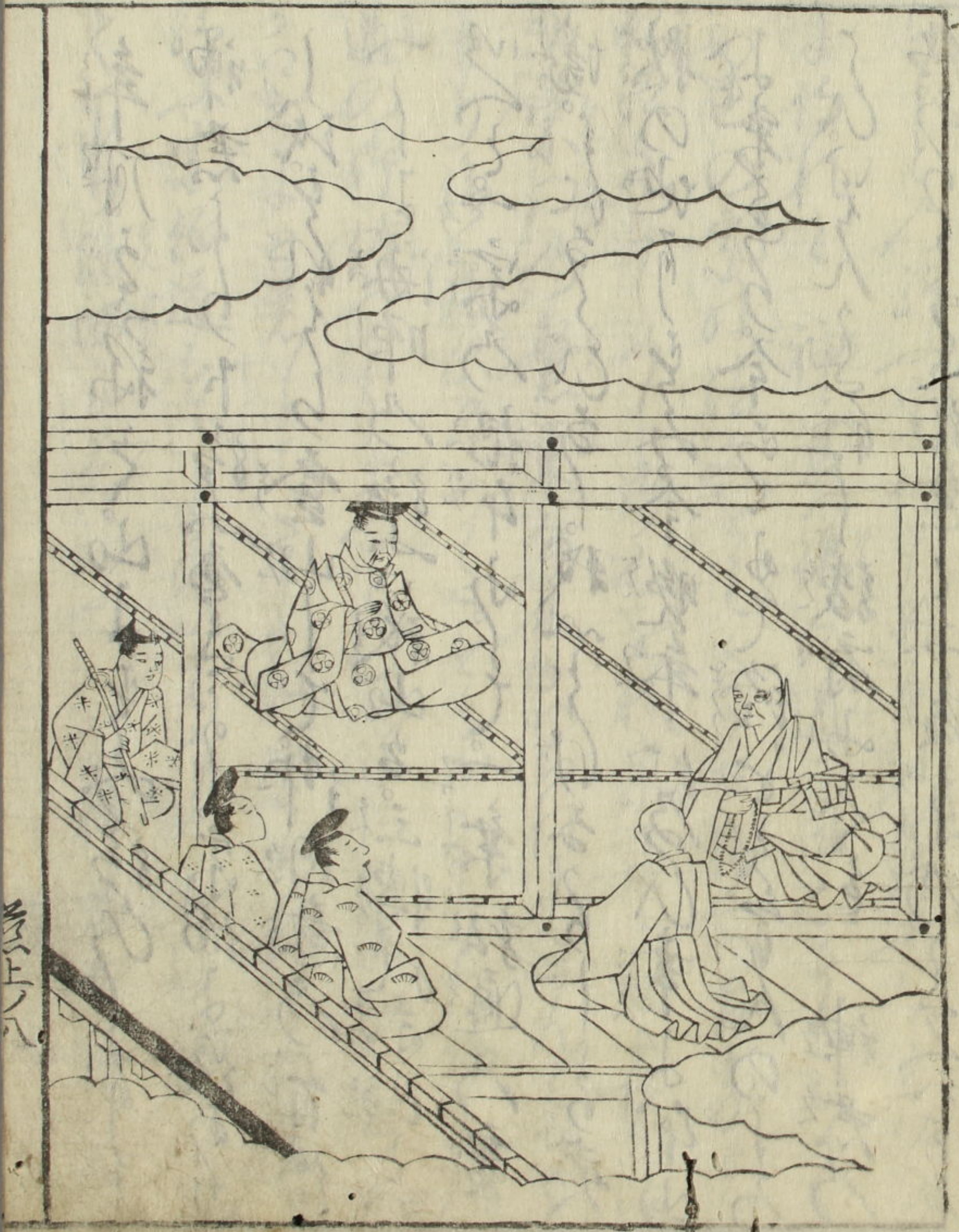
慶長四年。武列仙波喜多院に入寺し又  
 とせが程とみ給ふ同八年。下野の  
 沼宗光寺といふちよ梅り給つり。ある  
 十二年。叡岳乃亮中。ら路らりぞ記て  
 新論よ及びくハ 東照大権現とらるの  
 乃府城よありくもりよ。権僧正家盛と  
 一この首とて流徒とらりよ。あうてそそ  
 う川あちちり 神君理也とらりし日け  
 うせ給つて。悪徒とらふ山とあしひ給ふ  
 其は乃内名とらるる僧と撰

いばらまへと。施樂院入道宗伯よ作  
 下は後され。後寺のくらし。碩徳の人くしと  
 撰くよ。長沼宗光ら。拾傷心天海しき智  
 行兼俊の人よ。ゆりこ。人くし。りも。色い。と。る  
 たり。山門中院南谷南光坊よ。す。て。ん。と。は。ご  
 め。さ。せ。給。へ。宗伯天海と。駿嶽よ。お。て。ま。い  
 り。よ。神君海封西馬そ。乃。給。ん。せ。り。の  
 ら。め。て。を。え。入。り。れ。と。そ。こ。あ。山。よ。の。と。り  
 せ。ん。い。ひ。を。あ。め。り。武州河越乃。得  
 り。仙波喜多院。東國少。り。と。お。り。お。り

吾輩の檀林のり。傳少ゆら。そこ。し。り  
 傳おせは。我の寺。り。き。ま。そ。く。ん。さ。後。せ  
 先。言。う。を。く。さ。道。ん。ま。け。山。よ。の。あ。り。中。山  
 の。學。子。侶。と。ま。め。給。ふ。一。年。ら。く。と。行。り。  
 少。り。く。は。く。り。給。へ。と。り。給。ん。せ。き。ま。を。い。ら。り  
 宿。世。の。清。瑛。り。め。や。り。先。く。の。清。對。面。よ  
 く。り。給。ひ。ら。り。と。不。思。議。さ。れ。也。人。く  
 び。あ。り。ら。く。山。よ。の。月。り。門。の。住。持。へ。ま。よ  
 山。僧。り。ら。る。田。舎。の。傍。心。准。宿。さ。れ。い。山。の  
 法。不。僧。都。よ。む。く。し。ら。る。り。回。法。や。り。や



申し上るの智樂房といふ家門乃梅号を給  
 けり。あまのひ持後正り候へ給ふ。海に  
 小國大臣。来朝人國失位次乃道理候  
 せり。のりもしをゆれめ。のりもし修給ふ  
 ありに。ひもす。のりもし。一。點。心。山  
 禁ちりして。寐寥と照と。のりもし。とく  
 かく朝夕の燦を。のりもし。のりもし。とく  
 いとこも。のりもし。のりもし。のりもし。とく  
 かく朝夕の燦を。のりもし。のりもし。とく  
 いとこも。のりもし。のりもし。のりもし。とく



三上八

年月を結ぶ。山よきみ結ひしなり。

神君より下流へ至る。宗伯は治あり

一山を以て御内意乃旨傳へ

一山は海畔乃結ぶ。我山を三傳れ。結山とい

以て。一宗乃根中ありて。一葉松通乃靈

場。たきびあり。我へけり。りし。り夷

秋の地りともみ。今晚年に及ひ。幸よ。中山

よ。来より。今あり。終と。と。り。の。り。

と。ひ。と。ん。と。れ。一。後。府。あり。と。色。神。君。乃

治。あり。と。と。り。結。む。と。一。度。東。乃。と。と。り。を

ら。と。乃。結。ぶ。宗。伯。も。あ。ら。は。乃。結。ぶ。は。と。り

よ。れ。れ。と。神。君。の。佛。の。道。よ。の。ん。と。り。あり

い。道。の。宗。伯。法。文。と。と。り。を。結。ぶ。の。台。家。の。宗

伯。法。と。り。め。海。心。と。我。宗。よ。と。せ。乃。結。ぶ

也。宗。門。乃。結。ぶ。宗。伯。の。め。う。の。れ。よ。と。り。の。め。く

り。り。結。ぶ。我。の。め。と。と。り。の。め。く。よ。と。り。の。め。く

道。の。御。佐。つ。と。り。の。め。く。と。と。り。の。め。く。と。と。り

の。め。く。と。と。り。の。め。く。と。と。り。の。め。く。と。と。り

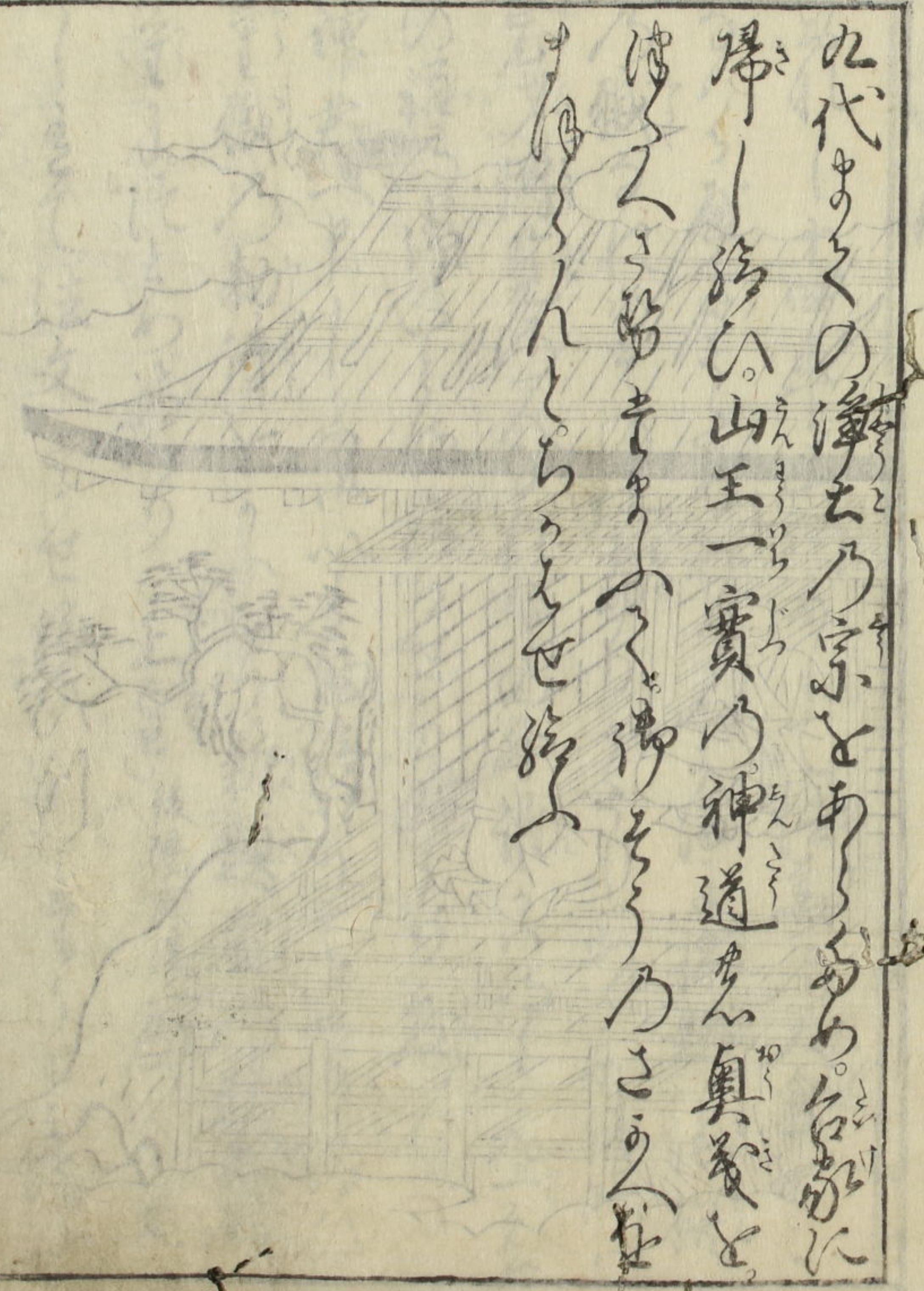
結。ぶ。宗。伯。道。と。と。り。の。め。く。と。と。り。の。め。く。と。と。り

く。と。り。の。結。ぶ。の。め。く。と。と。り。の。め。く。と。と。り

神君やとて。併

對面ありて。つひはあがらざりし終を。あ  
 りの終ひて。びくしと稱し。河越よりら  
 仙波の葉寺みゆらんを。くこのちよ。り終  
 へ。の終ひて。屋ぐく。この府とき。武城よ  
 あり。大樹人秀忠。まゝ。え。あ。し。つりて。  
 仙波あり。花多院よ入寺し。終ひ。は。く。得  
 多く。後城よ。あ。り。終ひ。し。御敬龍日  
 よ。あ。り。の。あ。さ。ゆ。あ。り。か。の。ひ。終ひ。僧  
 諦常僧の法文と。流。う。を。せ。り。三子三  
 鏡の淵源と。さ。り。終ひ。し。流。始。終。り。心。集

九代あとのの津去乃宗とあり。あ。あ。台。か。に  
 帰し。終ひ。山王一實の神道。名。真。義。と  
 流。へ。し。あ。き。あ。り。し。流。へ。し。乃。さ。の。終  
 あり。し。ら。う。と。せ。終ひ







一袋燕尾の帽中<sup>ごうちゆう</sup>う<sup>ごうちゆう</sup>治りせ治り<sup>ごうちゆう</sup>巾<sup>ごうちゆう</sup>の<sup>ごうちゆう</sup>我<sup>ごうちゆう</sup>も<sup>ごうちゆう</sup>人  
 あくもぬく事あり。是乃あゆもあ<sup>ごうちゆう</sup>と  
 一んのあちち<sup>ごうちゆう</sup>堂<sup>ごうちゆう</sup>上<sup>ごうちゆう</sup>少<sup>ごうちゆう</sup>を<sup>ごうちゆう</sup>此<sup>ごうちゆう</sup>枝<sup>ごうちゆう</sup>は<sup>ごうちゆう</sup>く<sup>ごうちゆう</sup>へ  
 一もの治りあり。それ<sup>ごうちゆう</sup>ら<sup>ごうちゆう</sup>り<sup>ごうちゆう</sup>く<sup>ごうちゆう</sup>は<sup>ごうちゆう</sup>思<sup>ごうちゆう</sup>沙<sup>ごうちゆう</sup>門<sup>ごうちゆう</sup>  
 堂<sup>ごうちゆう</sup>の<sup>ごうちゆう</sup>家<sup>ごうちゆう</sup>小<sup>ごうちゆう</sup>婦<sup>ごうちゆう</sup>一<sup>ごうちゆう</sup>治<sup>ごうちゆう</sup>小<sup>ごうちゆう</sup>宸<sup>ごうちゆう</sup>翰<sup>ごうちゆう</sup>と<sup>ごうちゆう</sup>下<sup>ごうちゆう</sup>され<sup>ごうちゆう</sup>持<sup>ごうちゆう</sup>傍<sup>ごうちゆう</sup>  
 正<sup>ごうちゆう</sup>治<sup>ごうちゆう</sup>の<sup>ごうちゆう</sup>正<sup>ごうちゆう</sup>は<sup>ごうちゆう</sup>任<sup>ごうちゆう</sup>じ<sup>ごうちゆう</sup>治<sup>ごうちゆう</sup>り<sup>ごうちゆう</sup>





下野日光山神護景雲元年に勝道  
 禪師始と分入給ふより慈覚弘法  
 大師おほくこのゆ。梵刹とてそ佛像を  
 彫刻し給ふに終て二芒山の秋月、前  
 長秋の夕みらとて。標茅原の綱を  
 懸けし。色草の赤葉とて。名河の目試に  
 かみとて。くわとて。舊寺なり。あつわれとて。中  
 比より修治の法とて。あつて。佛法衰微し。  
 傍中も。俗意とて。確執の。とて。出来たり。  
 祇若とて。あつて。衆頂とて。追撥し。給ふ。





先なり。海岸といふをいひてまじくせん。す  
 るくしておつりしはとありの目 大樹が  
 ひ。御病中仕一人くは。御封西ありたり。  
 海岸は右の座よつる。崇徳は右方の座の  
 上よありしうらむ。おは利信るれの追悼  
 の青とつる。御遺言よありし久徳  
 山よ葬りたり。ゆるとせの海岸といひ  
 ありしうらむ。ゆるとせの海岸といひ  
 ありしうらむ。ゆるとせの海岸といひ  
 ありしうらむ。ゆるとせの海岸といひ

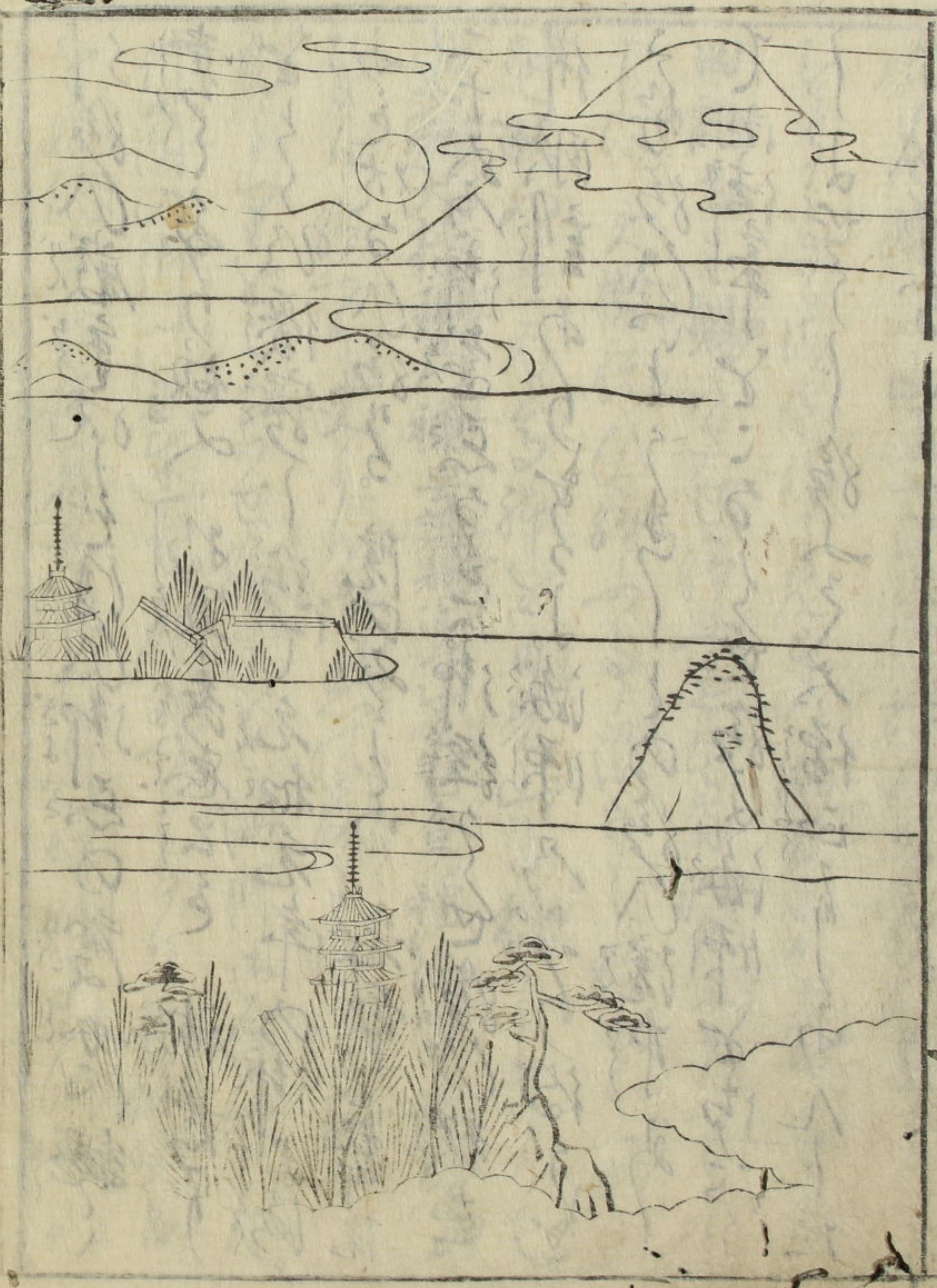
ひゆちやとつひは。ゆとせの海岸といひ  
 の習合は神なるよ。ゆとせの海岸といひ  
 一は乃より。ゆとせの海岸といひ  
 國の神のよ。ゆとせの海岸といひ  
 海はゆとせの海岸といひ。ゆとせの海岸といひ  
 乃怨し。ゆとせの海岸といひ。ゆとせの海岸といひ  
 はゆとせの海岸といひ。ゆとせの海岸といひ  
 終つり。ゆとせの海岸といひ。ゆとせの海岸といひ

當家とくまのめや。汝宗源とも習合  
ともいそく知人と同巻好也有り  
上師女まうらひお御あといひ  
の折くくめり事りおせらるる  
南光宗ともいそくを鳴よ。あ  
夜とくまをねん。柳堂とや  
海師の夜とまきせられし。流  
し。ゆきひしよ。柳堂は  
として。目ゆやうん。信  
まふゆくは信正。戸よま  
まふゆくは信正。戸よま

めらんとあうらうど。らあひてま  
よめ。あ。育と海とりせ  
の能く。り。を。乃。ゆ。ひ。し。よ。大樹  
あ相。信。の。及。よ。ん。と。入。り。せ。ゆ。り。神  
と。一。の。及。あ。く。ど。それ。し。七。親。の。ゆ。ふ  
ら。あ。ん。と。に。り。く。あ。く。ぬ。る。さ。れ。ぬ。内。う。ふ  
ん。と。源。正。正。と。ゆ。使。と。て。林。永。正。ゆ  
い。倉。の。儒。学。の。者。と。う。り。ま。信。正。乃。り。ゆ  
ひ。く。奏。安。寺。し。よ。習。合。の。神。乃。め。つ。し。し。

らと珠よ山五一實の神乃台家ノ奥義と  
しるすゆ。此もゆらんとの倫言とを惣合  
回記を賜ふを給ふ意は首尾一なり  
一は 大樹松の給ふも限なく行きて一  
も成りぬらん。神と日光山は後一なり  
東照天控現乃神号譚乃山王習念乃社海師を祝ひ  
より給なり。史より神忌度御法事。  
此よりとこなり世給ふも海師出守師と  
作園の御門直進も座よりなり。括録  
と始納言泰儀着座して御守師よりなり

引給ひ嚴守れども御忌の度毎に魏  
對くあり。叔又 將軍秀忠公也 神君  
とくは優宥し給て元和元年の御上  
也を依り給り。院のみとい 先帝 正親町院  
二十乃御意あるも御経く世給ひ釈  
佛歌刻ありなり。海師乃より給う  
と給ひいとうととの給ひ院中あり  
て御法事とこなり世給ふ海師と法  
しよせり。大僧正よりありんた  
しひも



同ト年乃夏比自光山東照神河の奥院  
のこころ小 神君忠勸の人づくる骨  
堂もてんとく地と引結ふよ冷地りい  
るくはに仏像ありしそそ巖石と揺らけ  
しあ又寸餘の金洞乃地蔵菩薩一神攝  
かせり今妙乃院の堂内よ安坐せり。まこ  
敬原正成 神君の至徳なり  
いと尾列の亞相義直兼へ付させ給ふよ  
と進めくも忠勸と流しけつる人ら日比  
孫づひもるは。こまれど死後よ

御<sup>み</sup>之<sup>の</sup>つ<sup>つ</sup>り<sup>り</sup>よ<sup>よ</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>ん<sup>ん</sup>と<sup>と</sup>ひ<sup>ひ</sup>が<sup>が</sup>ま<sup>ま</sup>よ<sup>よ</sup>と<sup>と</sup>  
 せ<sup>せ</sup>よ<sup>よ</sup>義<sup>ぎ</sup>直<sup>ち</sup>ん<sup>ん</sup>揚<sup>や</sup>乃<sup>の</sup>福<sup>ふ</sup>と<sup>と</sup>そ<sup>そ</sup>く<sup>く</sup>ま<sup>ま</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>い<sup>い</sup>  
 え<sup>え</sup>ん<sup>ん</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>く<sup>く</sup>に<sup>に</sup>月<sup>げつ</sup>光<sup>こう</sup>山<sup>さん</sup>よ<sup>よ</sup>死<sup>し</sup>骸<sup>がい</sup>と<sup>と</sup>く<sup>く</sup>ら<sup>ら</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>  
 よ<sup>よ</sup>い<sup>い</sup>ま<sup>ま</sup>く<sup>く</sup>死<sup>し</sup>せ<sup>せ</sup>ら<sup>ら</sup>ら<sup>ら</sup>三<sup>さん</sup>目<sup>め</sup>ま<sup>ま</sup>ん<sup>ん</sup>よ<sup>よ</sup>海<sup>うみ</sup>の<sup>の</sup>終<sup>はつ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>  
 と<sup>と</sup>神<sup>かみ</sup>洞<sup>どう</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>り<sup>り</sup>り<sup>り</sup>よ<sup>よ</sup>正<sup>せい</sup>成<sup>じやう</sup>ら<sup>ら</sup>よ<sup>よ</sup>来<sup>き</sup>り<sup>り</sup>く<sup>く</sup>  
 神<sup>かみ</sup>意<sup>い</sup>の<sup>の</sup>御<sup>み</sup>前<sup>まへ</sup>よ<sup>よ</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>く<sup>く</sup>と<sup>と</sup>み<sup>み</sup>ほ<sup>ほ</sup>く<sup>く</sup>を<sup>を</sup>り<sup>り</sup>家<sup>いえ</sup>  
 の<sup>の</sup>比<sup>ひ</sup>が<sup>が</sup>ま<sup>ま</sup>す<sup>す</sup>る<sup>る</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>め<sup>め</sup>と<sup>と</sup>お<sup>お</sup>も<sup>も</sup>や<sup>や</sup>そ<sup>そ</sup>ら<sup>ら</sup>く<sup>く</sup>よ<sup>よ</sup>  
 来<sup>き</sup>ん<sup>ん</sup>い<sup>い</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>れ<sup>れ</sup>め<sup>め</sup>色<sup>いろ</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>ら<sup>ら</sup>と<sup>と</sup>し<sup>し</sup>海<sup>うみ</sup>と<sup>と</sup>  
 一<sup>いち</sup>き<sup>き</sup>あ<sup>あ</sup>く<sup>く</sup>と<sup>と</sup>



真上二十

元和六年海師上京し終ふ  
先帝  
三回乃聖忌九月なりしよりわりの終ふ  
を。上よりわりの終ひ。海と御守師と  
七日うやど。海涼殿より。法華懺法と  
らふりせ終ふ。上よりわりの終ひ。御守師  
龍像と部々。はとめを路終ひ。右大臣  
道新殿。とらめを介公。進座より。はと  
信守と。御守師より。物を引。引たし終ふ。佛の  
御守師より。わりの終ふ。若香のう。あひ  
みらる。ゆふに。たが界め。遍海と。こ

甚色乃御回向とお見え。悲嘆聲年  
款曲。心し。おき。うとく。とみ。より。え。え  
きく。人く。色。結業。怨。乃。お。い。と。み。や  
う。よ。六。根。懺。悔。乃。綱。目。り。と。け。生。死。輪  
回。心。雲。と。い。ふ。う。ら。沙。汰。海。經。の。終。ひ  
風





67 3387

